

クラス番号	322	担当教員名	久保 樹里
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	困難を抱える子どもとその家族を支える支援システムの構築		
著書・論文	著書：『すき間の子ども、すき間の支援—一人ひとりの「語り」と経験の可視化』（共著）2021年 『日本の児童相談所—子ども家庭支援の現在・過去・未来』（共著）2022年 「児童相談所児童福祉司の専門性と人材育成の現状と課題—児童相談所職員の対話から」 2019年 『子どもの虐待とネグレクト』vol.22 No.3		
研究課題等	「児童相談所と市区町村との連携・協働・役割分担」2019年 こころの科学 214号 研究課題：子どもの虐待防止、地域支援システム、虐待からの回復、支援専門職の専門性の向上		

## ゼミナール概要

キーワード：子ども虐待防止、地域での包括支援、子どもの権利擁護、当事者主体

虐待、ヤングケアラー、いじめなど子どもに関する問題が世の中には数多く存在しています。これは、その時だけでなく、将来にも生きづらさを与える深刻な問題ですが、親が悪い、加害した子どもが悪いなどと簡単に決めつけて終われるようなものではありません。では、このような問題の防止、解決、回復に向けて、どうしたらよいか。今、子ども家庭福祉分野の支援のあり方は大きく変容を遂げてきています。地域を基盤に当事者参画、切れ目ない支援などがその主たるトピックです。子どもが健全に育つためにソーシャルワークができることを考えていきましょう。

目的：・子ども家庭福祉の支援の変遷を知り、今日的課題についての原因や解決方法についてミクロ・メゾ・マクロの視点から考える力をつける。

- ・人間理解を深め、支援を要する当事者である子どもや家族を中心に進めるソーシャルワークを理解する。
- ・自分自身の理解を深め、メタ認知力を養う。少人数のチームでの共同作業を通して、対話力、コミュニケーション力、発表力を付ける。
- ・自らの興味関心を明らかにし、そこから課題発見、情報収集、分析、発表、執筆などの力を身に付け、卒論を作成する。

内容、方法：

チームでの相互の学びを重視しています。情報を収集し、相当量の文献読んで、深く考え、まとめ、それを発表します。他の学生の発表に適切なコメントができる力やファシリテーションの力をつけていきます。また支援現場に赴き、その体験をとおした学びも重視します。

授業計画：

- 3年次：・テキストを元にレジュメの作成、発表、ディスカッションを通して、学びを深める。
- ・学生同士の対話、情報収集、発表、事例研究、子ども家庭福祉に携わる施設や機関などの福祉現場でのフィールドワークなどを行い、その内容を発表して、学びを深める。
  - ・子ども家庭福祉に関係する資料や動画、現場の実践者や支援機関とのかかわりをとおして課題についての理解を深め、自らの興味関心を明らかにする。
  - ・卒論テーマを決め、そのテーマに沿って先行研究を収集したり、卒業論文作成の基礎を学ぶ。
- 4年次：・3年次からの活動を継続し、インタビュー調査の実施、分析などを行い、卒論の完成に向けて、執筆を進める。
- ・チームでの対話、ゼミでの発表と内容についてのディスカッションで深める。
  - ・卒論の添削と修正を繰り返し、卒論を完成する。

## 担当教員からのメッセージ



私は長く児童相談所で児童福祉司として長く働いてきました。退職後はスクールソーシャルワーカーとしても働いてきました。さまざまな子どもとその家族の相談に応じるなかで、どうしたらよい支援ができるのか模索を繰り返してきた経験を元に学生の皆さんと共に学んでいきたいと思えます。積極的にオープンマインドでゼミに参加し、課題に取り組んでくれる学生、将来、児童相談所、市町村の子ども相談に関わる部署、学校、社会福祉施設など子どもに関わる現場での就職を考えている学生を歓迎します。

できる限り、3年次に「家族援助論」、4年次に「子ども家庭ソーシャルワーク論」を受講していただきたいです。「エントリーシート」に①ゼミを希望する理由 ②自分から見た自分（強みと弱みなど）について記入をお願いします